

～ セピア色の風景 ～

「名付け」

青田 茂雄

仙台建設業協会専務理事

高校を卒業し相馬の実家を出て、50年になるだろうか。秋には金色の絨毯（じゅうたん）だった広い耕地は今、昨年のうちに一度耕され、黒い平野になっていることと思う。

戦後、農家の長男だった親父は、一生懸命働いて少しずつ田んぼを買い求めて増やしていった。増えた田んぼは、広い平野（農村では、「コウド」と言っていた。多分、耕土だと思う）に点在していた。

耕地整理（当時は1区画が1反）された広い耕土で、各家が所有する田んぼがどうして分かるか、部外者には不思議に感じると思うが、さすがに所有者は分かるのである。さらに、各家の中でも、点状にしている所有田を特定できないと、仕事上支障をきたす。そこで各家で名付けすることになる。

わが家の田んぼのほとんど

の名付け親は親父である。今、約50年を過ぎてまだ記憶にある田んぼの名前を列挙してみる。わが家の原語（正式表記？、名付けの根拠）の順で紹介する。

◆ たなかめい（田中前、小字名）

◆ きたざーめ（北沢前もしくは北沢目、北沢は小字名）

◆ おおつかのうっしょ（大塚の後ろ、大塚家の北側にあったので）

◆ ごたんのどこ（五反のところ、所有する田んぼが5枚並んでいたの）

◆ はいすいのきた（排水の北、排水用の大きな水路の北側にあったの）

◆ はやかわみち（早川道、その田んぼの脇のあぜ道を通むと、他集落の早川家にとどり着くため）

◆ いいぶちけいどう（飯渕街

道、その田んぼが南飯渕集落の児童が通う通称・飯渕街道という通学路脇にあったの）

◆ がんたがんだばし（ガンタガンタ橋、その田んぼに行く際に必ず通る石盤の橋が、そのたびに「ガンタガンタ」と音がするので）

田んぼの名付け。いわば多くいるおじさんおばさんに、〇〇のおじさん、□□のおばさんと名付けるようなものがある。

おじさん、おばさんの昔の風貌を思い出すように、家族が働く姿と田んぼごとの風景が目に見えかぶ。

● あおた・しげお 1956年生まれ。福島県相馬市出身。2016年5月から仙台建設業協会の専務理事を務める